

統計研修講義計画書

研修課程	本科（総合課程）	講義科目	労働・雇用分析	講義時間	5コマ
講師	出島 敬久 上智大学経済学部教授				

※1コマ70分

講義のねらい

雇用と賃金、求人・求職状況に関する統計を、政府統計を中心に概観し、調査目的と基礎的な分析手法も説明する。政府統計には、労働市場の動向を速やか把握する目的と、各属性ごとの労働者の雇用量・労働時間と賃金の構造を把握する2つの方向性がある。その見地から、主要な統計調査である労働力調査、毎月勤労統計調査、賃金構造基本統計調査について、近年の結果と観察された事実を説明する。

さらに、属性ごとの賃金の構造をとらえると、より具体的な分析ができることを提示する。例としては、産業間の賃金格差の要因、子育ての機会費用の算定、生涯賃金と家計消費の関係である。

実習として、賃金構造基本統計調査の集計データを加工できるデータベースを用いて、クロス表を作成する。また、個別企業の賃金の把握方法とその限界も付け加える。

指導項目と内容

指導項目	内 容
1 労働市場の特徴	労働市場を規定する労働需要と労働供給の性質に関して、ミクロ経済学での理論を説明する。また、労働需要の特徴として、財需要の派生需要であることに注意し、少子化と人口減少がもたらす賃金と雇用量への影響を議論する。
2 労働市場に関する主要統計の紹介	労働市場に関する統計のうち、雇用と賃金、求人・求職に関する主な政府統計を、動向の速報と、詳細な構造の把握という二つの目的を軸に整理する。
3 労働統計の調べ方と 独特の統計用語の注意	労働統計に関する有用なウェブサイトの利用方法を紹介する。労働者の分類や賃金の概念などに関する独特の注意点もあわせて説明する。また、労働契約の分類と制約にも触れる。
4 応用分析例： 産業間賃金格差の要因 女性の子育てに関する機会費用 生涯賃金と消費動向の関係	賃金が年齢や勤続とともに上昇することを関数として表すと、賃金所得の経済的な影響に関して現実的な分析が可能になる。分析例として、産業間賃金格差の要因、子育てによる就業中断での機会費用の算出、生涯賃金と家計消費の関係について、それぞれ紹介する。
5 e-statの労働統計のデータベース を用いたクロス表の作成 個別企業の賃金の所在と限界	労働統計のうち賃金構造基本調査などでは、e-statが簡単な入力でクロス表を作成できるデータベースを用意している。その実習を行う。また、個別企業の賃金を有価証券報告書で確認する方法と限界も説明する。

講義形態 指導方法	パワーポイント等の演示と補助的な統計資料の口頭説明
受講に必要な 基礎知識等	基礎的な平均、標準誤差に関する知識